SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

献辞 (浅利一郎教授退任記念号)

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学人文社会科学部 公開日: 2016-06-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 櫻井, 良治 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00009620

献　　辞

私が最初に浅利教授の印象を得たのは，1992年に法経短大に赴任した直後と記憶しています．当時の法経短大は，人文学部との合併協議が盛んでした．当時浅利教授は，人文学部の次年度カリキュラムの編成作業をしていました．私の研究室を訪問して，人文学部の授業に誘っていただき，熱心な仕事ぶりと丁寧なお誘いに感謝したのを覚えています．

その後の思い出は，私が浅利教授のマクロ経済学の授業の期末試験監督補助をした時の事です．浅利教授は，兼ねてから学生指導に厳しいとは聞いていましたが，水を漏らさぬ徹底した試験監督ぶりには，感心しました．特に，教室の一番高い所に上がって，全体を監督する教育熱心な姿勢に，感嘆しました．

浅利教授は，学生には，授業と単位取得に厳しい先生と受け止められてきましたが，実際には学生に対する深い愛情に由来するものだと，だんだん分かってきました．氏は，学部ゼミで，後に経済学科の教員になる学生を育成するなど，研究者の輩出にも，多大な貢献をしてきました．

浅利教授は，10年ほど前に，経済学科の学生の専門性を高める教育を推進するために，「コース制」導入を提案しました．氏の尽力によって，学生を理論，政策，経営の三つのコースに分けて教育する「コース制」が導入されました．しかし数年前に，教員不足等の理由から廃止されました．今では，歴史的に記念すべき改革であったと位置づけられます．

浅利教授は，2007－2009年には，教員選挙で静岡大学人文学部長に選ばれ，2010－2013年には静岡大学副学長（企画・評価担当）の重職に昇格しました．

これ以降，経済学科の一般教員との直接の接触は減りました．しかし実際には，浅利教授は，私達一般教員の見えない所で，教員の仕事が支障なくできて，大きな成果が上がるように，大学執行部で采配をふるってきたものと思います．

浅利教授は，在任中一貫して，経済学科の根幹教員として，教育・研究を指導する中心的な存在でした．氏の存在により，安心して働くことができました．大学の要職に就かれてからも，その存在感自体が，一般教員の日々の研究・教育活動の励ましになりました．

大学改革の嵐に巻き込まれて，困難な状況で議論百出して暗礁に乗り上げそうになっても，「浅利先生が元気なうちは，それほど酷いことにはならないだろう」と思わせるほど，最後の安心感の拠り所でした．

本論文集は，浅利教授の教育と研究における本学へのご貢献に対する感謝の気持ちをこめて，定年退職を記念して編集されました．ここに謹んで，浅利教授に本論文集を捧げるものです．

今後とも，お体を大切にして，これまで蓄積した研究を無理なく継続発展されるとともに，経済学科に対する変わらぬご指導とご交誼をお願いする次第です．

2016年２月

静岡大学経済学会会長　櫻　井　良　治